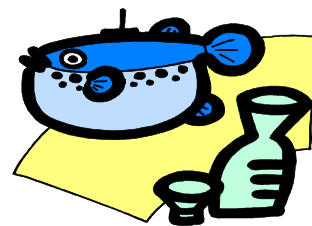


～エアバッグ類不適正処理撲滅キャンペーンについて～

本誌でも再三報告したとおり、エアバッグ類の不適正処理が問題となっています。様々な理由から、未作動エアバッグが廃車ガラと共にシュレッダー工程に流入しているとの破碎業者の指摘があり、その後の調査で、その件数が看過できる範囲をはるかに超えている事実が関係者より報告されました。また、いわゆるハーフカット車に未作動エアバッグが搭載されたまま輸出されたケース、販売目的でエアバッグを取り外して保管していたケースなども明らかになり、既に一部の解体業者が、リサイクル法違反による行政処分、作動処理契約の一時停止あるいは解除といった措置の対象となっています。自動車リサイクル法のもと、エアバッグ類の適正な処理は解体業者の基本的な義務行為でもあることから、ELV機構では会員に対して、現在開催中の全国地域講習会等において強くアピールするなどして、適正処理の徹底を訴えています。この度、更なる適正処理の徹底を会員の皆さまに図っていただくため、事務局を中心に、「エアバッグ類適正処理手順書」の“ひな型”の策定を行い、全国の地域団体を經由して会員の皆さまに配布する準備を行っています。完成次第ご案内いたしますのでよろしくご協力いただきますようお願いいたします。■（ELV機構事務局）

自再協安全指導員の増員について

自動車再資源化協力機構（自再協）は、今年より、新たにエアバッグ類の車上作動処理契約を締結した解体業者に対して「作動処理安全指導」を実施しており、当ELV機構のインストラクターがその指導員として協力しています。エアバッグ類の車上作動処理は危険な作業を伴うため、自再協では、作動処理マニュアルの整備を行うとともに現場監査の強化など、安全作業の普及・徹底に努めてきました。現在、エアバッグ類の車上作動を新規に行う解体業者が年間約100社（会社の名義変更、事業所の変更等を含む）に上ることから、自再協では本年年初よりELV機構との業務委託契約を締結して、全国の認定インストラクターから選抜された11名を「安全指導員」として採用し、新規参入業者への指導体制を整えてきましたが、この度、約半年間の実績を踏まえ、更に12名（予定）のインストラクターを全国各地のブロックより選抜し「安全指導員」に任命とすることとなり、現在、当該ブロック長の協力を仰ぎ、指導員候補者の選抜を行っています。■



《ELV機構関連行事予定》

1/4	事務局御用始め
1/12	鉄リサイクル工業会賀詞交歓会
1/21	岡山県フロン講習会
2/1	第5回ELV判別ガイドラインWG

ELV機構の一年を振り返って

～2010年版事務局スケジュール表より～

1/20	諮問委員会（現渉外委員会）	5/27	定期社員総会・臨時理事会	10/17	関東三ブロック会議
1/24	九州ブロック会議		会員全体集会・懇親会	10/20	第3回ELV判別ガイドラインWG
1/28	四役会（現執行役員会）	5/28	第1回常任役員会（旧四役会）	10/22	山陰（合同）地域団体講習会
1/31	酒井前代表ご逝去	6/22	第2回常任役員会	10/29	近畿ブロック会議
2/6	酒井前代表ご葬儀	7/1	第1回ELV判別ガイドラインWG	11/5	大阪地域団体講習会
2/7	緊急臨時理事会		諮問委員会		富山地域団体講習会
2/16	東北ブロック会議	7/2	近畿ブロック会議（代表理事出席）	11/8	山形地域団体講習会
2/22	諮問委員会	7/8	RT部会	11/9	岐阜知育団体講習会
2/23	北海道ブロック会議	7/15	第3回常任役員会	11/11	愛知地域団体講習会
2/24	中国ブロック会議	7/20	渉外委員会（旧諮問委員会）		岩手地域団体講習会
2/26	近畿ブロック会議	8/6	政府合同会議	11/12	埼玉地域団体講習会
2/27	関東中ブロック会議	8/9	渉外委員会	11/16	宮崎地域団体講習会
3/9	三役会（副代表理事他）	8/18	渉外委員会	11/18	宮城地域団体講習会
3/13	中部ブロック会議	8/24	第4回常任役員会		新潟地域団体講習会
3/15	リサイクル技術（RT）部会	8/25	第1回理事会		第7回常任役員会
3/20	四国ブロック会議	9/1	第2回ELV判別ガイドラインWG	11/20	福岡地域団体講習会
3/26	諮問委員会	9/2	中部Bインストラクター研修会		秋田地域団体講習会
4/3	緊急役員会	9/7	近畿・中・四国インストラクター研修	11/23	西東京地域講習会
	関東三ブロック合同会議	9/9	九州・沖縄Bインストラクター研修	12/4	福島地域団体講習会
4/20	ELV機構・自工会定期協議会	9/10	北海道Bインストラクター研修会	12/5	東京江戸川団体講習会
4/21	執行役員会、諮問委員会	9/13	東北Bインストラクター研修会	12/8	東北ブロック会議
4/28	理事会	9/15	関東Bインストラクター研修会		（栗山代表、榎本副代表出席）
5/20	諮問委員会	9/16	第5回常任役員会	12/16	第8回常任役員会
		9/25	九州ブロック会議（代表理事出席）	12/17	第1回ブロック長会議
		9/30	渉外委員会	12/24	第4回判別ガイドラインWG
		10/14	第6回常任役員会		

～読者投稿～ 今回は、ELV機構会員の(株)茨城オートパーツセンターより、同社のコンバートEV製作活動と、それによるEVレース参戦の模様をご投稿いただきました。2回に分けて掲載します。

地球環境にやさしい乗り物として電気自動車（EV）が注目され、各自動車メーカーならびに経済産業省や環境省など関係官庁も普及促進策を講じる中、(株)茨城オートパーツセンター（代表取締役 増田嘉久）では、環境貢献と自動車リサイクルの両立、また社員教育の一環としてコンバートEV（手作り電気自動車）の製作を決意した。

平成22年5月3日（祝）に開催されたEVイベント Exciting GoGo! EV レース（日本EVクラブ主催）を観察、その志と楽しみを体感するとともに、自社製作が可能であると確信した増田社長の指示のもと、社員7名によるEVプロジェクトチームを発足させ、平成22年6月1日、日本EVクラブに加盟、本格的な活動を開始した。本プロジェクトでは、自社で使用済自動車ベースとするコンバートEVを製作、11月3日（祝）に開催される『第16回日本EVフェスティバル』にエントリーし完走することを目標に掲げた。我がプロジェクト事務局は、右も左も分からない状況からの情報収集にはかなり苦労したが、日本EVクラブの対応と先輩会員との情報交換により計画を策定することができたことを心より感謝している。

ベースとなった車両は、96年式のスバルサンバー（KV3）。環境イメージのラッピングを施し、広報車として地域の方に幅広くEV（電気自動車）をアピールすることも目的の一つであったため箱形の軽自動車を選んだ。車両重量が軽いこと、2WDのマニュアルミッション車という条件もあった。ベース車両の入手とコンバートに必要なパーツの手配に一カ月を要した。パーツは主にコスモウェーブの指導によるもので、スタッフは仕事の合間を見ては担当者と連絡を取り合った。また、EVを通じ県内の自動車学校とも密な情報交換を行うようになった。

初めての試み故、製作過程において多少のトラブルはあったものの、多くの同志のお陰で平成22年10月21日、(株)茨城オートパーツセンターの【軽V3】は完成した。ベース車両（サンバー）をコンバートした【軽V3】は96V仕様、ADVANCED DCモーター&パナソニックEC-FV1260を組み合わせ、定格出力6.0KW・トルク8HPを発生、一充電の航続距離は60Km、最高時速は80Kmだ。11月3日のEVフェスティバル《第九74分耐久レース》では、上位入賞を狙いバッテリー16個を並列に配して搭載した。(株)茨城オートパーツセンターは内閣府認証NPO法人RUMアライアンス（環境貢献団体）に加盟しており、同団体加盟4社での出場も話題になった。青森・石川・宮崎の3社が茨城県に集結、4社で団結式を行い耐久レースに臨んだ。■（以下次号）



車両完成！歓喜の瞬間

＜参考＞
日本EVクラブ：<http://www.jevc.gr.jp/>
コスモウェーブ：<http://www.cosmo-wave.com/index.php>

～地域便り～ 北海道自動車処理協同組合

去る11月20・21日の両日、北自協9支部の内、札幌西、札幌東、空知、室蘭の4支部が共同で企画した「低圧電気取り扱い特別教育」講習会が北自協全会員を対象に開催され、28社50名が参加した。講習会は、「北海道職業能力促進センター」に委託して行われ、今回は14時間コース（8時間コースもあり）で行われたが、解体業に必要なハイブリッド車の取り扱いといった専門的テーマが含まれていなかったのは今後同様企画を実施する際の参考になろう。ハイブリッド車の普及により急速に弾みのついた次世代自動車の導入がますます盛んになると思われることから、自動車リサイクル業界も将来の新技术に対応出来るよう準備を進める必要がある。■



投稿：北自協
南理事長

実技講習風景

《編集後記》

- 早くも師走となり、街は暮れらしい光や音に満たされているが、果たして今年は実りある年であったと言えるのだろうか。一年前は、政権交代が醸し出すフレッシュな空気に満たされ、何か起こるぞという期待感にあふれていた。あれから一年、色々なことが起こりはしたが、皆が望んでいたようなパラダイムの転換ではなく、出口の見えない穴に引きずり込まれていくような恐怖感、焦燥感をもつのは編集子一人ではあるまい。
- 秋にスクラップインセンティブが終わったとたん、あちこちの同業者から、使用済自動車がまたオークションに集まっているとの声が聞こえてくる。業界にとって一番深刻な玉不足感が蔓延しているのであろう。使用済自動車判別ガイドラインの議論では、ディーラーなど、引き取り業者が本来務めるべき役割をしっかりと果たしてくれるよう必死に主張しているが、どうなることか。インセンティブで少し変わった流れも元の本阿弥か。
- エアバッグ類の適正処理徹底には本誌でも再三警鐘を鳴らし、自再協等の取り組み等についても誌上で紹介してきた。適正処理の徹底はいくらやってもやり過ぎということはないほど、解体業者にとっては重要なこと。更なる取り組みへの知恵出しが期待される。■（編集子）

＜発行者＞

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 広報チーム
〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2番2号 一美ビル5F
tel 03-3519-5181 fax 03-3597-5171
e-mail jaera-office2@clock.ocn.ne.jp

～12月第4週の鉄スクラップ価格動向～

東京製鉄が12月に入り5回の値上げ改定、各地で相場上昇続く

国内鉄スクラップ相場は、12月に入ってから強基調が続いている。東京製鉄は12月中に7、10、14、17、21日と鉄スクラップ購入価格を計5回、値上げ改定した。11月末価格からの値上げ幅は、最も小さい九州工場でも3,500円（海・陸）、岡山工場で4,500円（海・陸）。宇都宮工場に至っては5,000円と大きい。全国的にスクラップの発生量が少ない中、東京製鉄の値上げに他の製鋼各社も追随せざるを得ない状態で、各地区ともに値上げが続いた。年末年始は荷止め・炉休を行う電炉が多く、市中業者も出荷に動くなど、足元は様子見の雰囲気も出ているが、総じて堅調な市況のままで来年を迎えそうだ。

トルコ向けのスクラップ価格が急上昇、HMS1&2(80:20)がCFR480ドルの声も

欧米からのトルコ向けのスクラップ価格が急上昇している。先週の時点で米国No.ヘビーが450ドル（CFR）を上回る上昇を見せた後、今週にはさらにHMS1&2(80:20)で480ドル（CFR）、シュレッダーで485ドル（CFR）の成約が出たという声もある。

関東地区 電炉筋、年末環境で様子見機運

関東地区の鉄スクラップ相場は、年末環境となっていることから、電炉筋に様子見機運が広がっている。東京製鉄宇都宮工場が22日に鉄スクラップ購入価格を1,000円値

上げたものの、表面価格の値上げを実施した電炉は7社と、全体の半数以下。しかも値上げ幅は500円が中心で、個別対応は出ているものの、上げ幅は抑制気味だ。H2の実勢価格は35,500～36,500円中心、高値37,500円見当となっている。浜値は35,500～36,000円。

東海地区 23日から3社が値上げ、堅調推移で年末へ

東海地区では、大同特殊鋼が23日から一律500円値上げ、トピー工業、山口鋼業の2社は新断以外を500円値上げた。この流れを受けて、H2の実勢価格は33,500～34,500円、高値35,500円ところとなった。市中のスクラップ価格も23日から500円方の値上げが一巡した。業者ヤードの仕切り価格はこの半月で4,000円見当の上昇となった。なお電炉筋の早いところは、25日から年末年始の荷受け休みに入る予定だ。

関西地区 高値追いの市況展開続く

関西地区は、22日から岸和田製鋼と住金スチールが全品種1,000円の値上げを実施するなど、高値追いの市況展開となっている。H2の実勢価格は34,500～35,500円（一部高値は37,000円）ところとなった。

年末を目前に控え、スクラップの入荷が低調な電炉では裏値を加算するなど、各社とも引き合いを緩められない状況で、目先も強含みという見方が一般的だ。

姫路電炉は、22日から500～1,000円値上げ。H2の実勢価格は36,000～36,500円。■

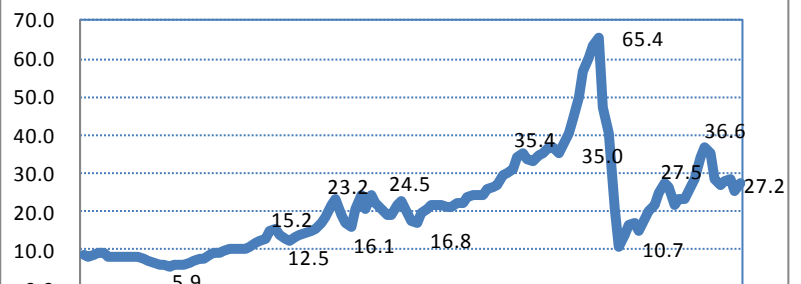
(※各地の価格動向は12月24日時点のもの)

12月第4週(24日)の国内スクラップ市中実勢価格

		H2	気配
関東	北関東	35,500 ～ 36,500	値上がり
	南関東	35,500 ～ 36,500	値上がり
名古屋		33,500 ～ 34,500	値上がり
関西	大阪	34,500 ～ 35,500	値上がり
	姫路	36,000 ～ 36,500	値上がり

単位: 千円/ト

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



平成12年 平成13年 平成14年 平成15年 平成16年 平成17年 平成18年 平成19年 平成20年 平成21年 平成22年

日刊市況通信社

～事務局便り～

ELV機構事務局のある新橋の駅前広場（通称ポッポ広場）にあるSL機関車もクリスマスの飾りつけが施され、運転席にはサンタが乗車、すっかり年末の趣です。本年6月1日に刷新したニュースレターVol.1を発行して早くも7ヶ月が過ぎようとしていますが、本号が2010年の最終号となります。読者の皆さまが素晴らしい年をお迎えになりますよう、編集部並びに関係者一同心よりお祈り申し上げます。なお、事務局は年末29日より新年1月3日までお休みをいただきます。■

